



ひと、くらし、みらいのために

厚生労働省

Ministry of Health, Labour and Welfare

平成 27 年 6 月 16 日

【照会先】

大臣官房統計情報部雇用・賃金福祉統計課

課長 久古谷 敏行

課長補佐 佐田 晴康

労働経済第一係

(代表電話)03(5253)1111(内線7622)

(直通電話)03(3595)3145

労働経済動向調査(平成27年5月)の概況

目 次

I 調査の概要	1 ページ
II 主な用語の説明	2 ページ
III 利用上の注意	3 ページ
IV 結果の概要	4 ページ
1 生産・売上額等、所定外労働時間、雇用の状況	4 ページ
2 労働者の過不足状況	6 ページ
3 未充足求人状況	6 ページ
4 雇用調整等	7 ページ
5 中途採用	8 ページ
6 平成28年新規学卒者の採用計画等	9 ページ
V 統計図表	10ページ
VI 附属統計表	16ページ
VII 【参考表】 地区別労働者の過不足状況	23ページ

労働経済動向調査の結果は、厚生労働省のホームページにも掲載されています。
アドレス(<http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/43-1.html>)

I 調査の概要

1 調査の目的

この調査は、景気の変動が雇用等に及ぼしている影響や今後の見通し等について調査し、労働経済の変化や問題点を把握するため、2月、5月、8月、11月の四半期ごとに実施している。

2 調査の地域

全国

(ただし、原子力災害対策特別措置法に基づき(福島第一原発事故に伴い)帰還困難区域、居住制限区域及び避難指示解除準備区域に設定された市町村等を除く。)

3 調査の対象期日及び実施期間

平成27年5月1日現在の状況について、平成27年5月1日～5月15日に実施した。

4 調査の対象

日本標準産業分類(平成19年11月改定)の建設業、製造業、情報通信業、運輸業、郵便業、卸売業、小売業、金融業、保険業、不動産業、物品賃貸業、学術研究、専門・技術サービス業、宿泊業、飲食サービス業、生活関連サービス業、娯楽業(その他の生活関連サービス業のうち家事サービス業を除く)、医療、福祉、サービス業(他に分類されないもの)(外国公務を除く)に属し、30人以上の常用労働者を雇用する全国の民営事業所から抽出した5,835事業所を調査の対象とした。なお、抽出方法としては、産業別に労働者数による確率比例抽出法を用いている(調査票回収数2,903事業所、有効回答数2,790事業所、有効回答率47.8%)。

5 調査事項

事業所の属性に関する事項、生産・売上等の動向と増減(見込)理由に関する事項、雇用、労働時間の動向に関する事項、常用労働者数、労働者の過不足感及び未充足求人数に関する事項、雇用調整等の実施状況に関する事項、平成28年新規学卒者の採用計画等に関する事項

6 調査の方法

厚生労働省が郵送により調査票を配布・回収した。また、インターネットを利用したオンライン報告方式を併用している。

II 主な用語の説明

1 労働者

- ① 常用労働者…… 次のいずれかに該当する労働者をいう。なお、下記⑤の派遣労働者は含まない。
 - ・期間を定めずに、又は1か月を超える期間を定めて雇われている者
 - ・日々又は1か月以内の期間を定めて雇われている者で、前2か月それぞれに18日以上雇われた者
- ② 正社員等……… 雇用期間を定めずに雇われている者又は1年以上の期間の雇用契約を結んで雇われている者をいい、下記④のパートタイムは除く。
なお、下記⑤の派遣労働者は含まない。
(注)平成20年2月調査から下線部分の追加により定義を変更し、併せて名称を「常用」から「正社員等」に変更した。
- ③ 臨時……… 1か月以上1年未満の期間を定めて雇われている者及び期間を限って季節的に働いている者をいい、1か月未満の雇用契約の者及びパートタイムは除く。
(注)平成20年2月調査から下線部分の追加により定義を変更した。
- ④ パートタイム…… 1日の所定労働時間又は1週間の所定労働日数が当該事業所の正社員のそれより短い者をいう。
(注)平成20年2月調査から下線部分を「一般労働者」から「正社員」に変更した。
- ⑤ 派遣労働者…… 労働者派遣法に基づいて他社(派遣元事業所)から当該事業所に派遣されている者をいう。

2 D.I.

Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、変化の方向性を表す指標である(具体的な定義については、以下①～④を参照)。

- ① 生産・売上額等判断D.I.
製造業では生産額、金融業、保険業では経常利益、それ以外の産業では売上高(収入金額)について、当該期を前期と比べて「増加」と回答した事業所の割合(%、以下同じ)から「減少」と回答した事業所の割合を差し引いた値。
- ② 所定外労働時間判断D.I.
所定外労働時間について、当該期を前期と比べて「増加」と回答した事業所の割合から「減少」と回答した事業所の割合を差し引いた値。
- ③ 雇用判断D.I.
労働者数について、当該期間末を前期間末と比べて「増加」と回答した事業所の割合から「減少」と回答した事業所の割合を差し引いた値。
- ④ 労働者過不足判断D.I.
労働者数について、調査日現在の状況で「不足(やや不足、おおいに不足)」と回答した事業所の割合から「過剰(やや過剰、おおいに過剰)」と回答した事業所の割合を差し引いた値。

3 未充足求人

事業所において、仕事があるにもかかわらず、その仕事に従事する人がいない(欠員)状態を補充するために行っている求人をいい、求人方法は問わない。

- ・ 欠員率
常用労働者に対する未充足求人の割合をいい、次式により算出。

$$\text{欠員率} = \frac{\text{未充足求人数}}{\text{常用労働者数}} \times 100 (\%)$$

4 平成28年新規学卒者

平成28年3月卒業予定者又は概ね卒業後1年以内の者を新規学卒者とほぼ同等の条件で平成28年度に採用する者

Ⅲ 利用上の注意

- 1 平成27年2月調査実施時に対象事業所の抽出替えを行った。
また、平成27年2月調査から会社以外の法人(信用金庫、財団法人、病院等)も調査対象とした。
その結果、会社以外の法人が調査対象事業所に占める割合は9.4%となり、特に「金融業、保険業」、
「学術研究、専門・技術サービス業」、「医療、福祉」においては、同産業に占める会社以外の法人の割合は
それぞれ13.1%、12.2%、91.0%と高くなっており、平成26年11月調査以前との比較には注意を要する。
- 2 日本標準産業分類の改定(平成19年11月)に伴い、平成21年2月調査から新産業分類に基づき表
章している。更に平成21年2月調査から「医療、福祉」を追加しているため、平成20年11月調査以前との
比較には注意を要する。
- 3 この調査で「サービス業」とは、「サービス業(他に分類されないもの)(外国公務を除く)」を指している。
- 4 労働者の職種については、日本標準職業分類を参考とした独自の分類のほか、職務や技能の習熟度によ
る分類を使用している。日本標準職業分類の設定(平成21年12月)に伴い、平成23年2月調査より、職種
の見直しを行った。
- 5 雇用調整等の実施状況に関する事項については、回答していない事業所を「実施していない又は予定
がない」とみなして集計している。
雇用調整等の方法については、平成24年11月調査までの集計にならない、「雇用調整の方法」と「その他の
調整方法」に分けて集計した。ただし、「雇用調整の方法」には平成25年2月調査から、「新規学卒者の採用
の抑制・停止」を追加したため、平成24年11月調査以前との比較には注意を要する。

・「雇用調整の方法」として集計 残業規制 休日の振替、夏期休暇等の休日・休暇の増加 臨時、パートタイム労働者の再契約停止・解雇 新規学卒者の採用の抑制・停止 中途採用の削減・停止 配置転換 出 向 一時休業(一時帰休) 希望退職者の募集、解雇	・「その他の調整方法」として集計 所定内労働時間の短縮 賃金等労働費用の削減 下請・外注の削減 派遣労働者の削減 (注) 平成27年2月調査から下線部分を「操業時間・日数」から 「所定内労働時間」に変更した。
--	--
- 6 この調査では、該当集計項目に回答していない事業所については、一定の回答をしたとみなして集計す
る(Ⅲ 利用上の注意 5)、当該事業所を除いて集計する、当該事業所を含むすべての事業所について集計
するなど集計方法は項目により異なっている。
- 7 「生産・売上額等」「所定外労働時間」「雇用」の判断D.I.の季節調整は、センサス局法X-12-ARIMAのな
かのX-11デフォルトによる。
- 8 雇用判断D.I.は、当該期間末と前期間末の状況を比較したものであるが、その他の判断D.I.との比較から
統一した表側を用いている。
- 9 統計表中の「0」は表章単位の2分の1未満の割合を示し、「-」は該当数値がないもの、「△」はマイナス、
「・」はあり得ないもの、「・・・」は調査していないため不明であることを示す。
- 10 この調査では、それぞれの回答をした事業所の割合を集計して表章しているが、労働者が多い事業所ほ
ど調査対象として選ばれやすくなっている(労働者数による確率比例抽出)ため、実質的に、事業所の割合と
いうよりも、こうした回答をした事業所で働く労働者の割合に近い。
- 11 用語の「正社員等」の変更により平成20年2月調査から集計対象が一部異なっているため、第3図、第5図
の平成19年11月調査以前との比較には注意を要する。

IV 結果の概要

1 生産・売上額等、所定外労働時間、雇用の状況

(1) 生産・売上額等

生産・売上額等判断D.I.(平成27年4～6月期実績見込)は、調査産業計マイナス2ポイント、建設業1ポイント、製造業1ポイント、卸売業、小売業5ポイント、医療、福祉マイナス16ポイント、サービス業2ポイントとなった。

生産・売上額等判断D.I.(平成27年7～9月期見込)は、調査産業計3ポイント、建設業4ポイント、製造業5ポイント、卸売業、小売業0ポイント、医療、福祉5ポイント、サービス業20ポイントとなった。(表1、第1図、付属統計表第2表)

表1 主な産業別生産・売上額等判断D.I.(季節調整値)

(「増加」-「減少」, 単位:ポイント)

期 間 年 月 (平成)	調査産業計			建設業			製造業			卸売業, 小売業			医療, 福祉			サービス業		
	見込	実績 見込	実績	見込	実績 見込	実績	見込	実績 見込	実績	見込	実績 見込	実績	見込	実績 見込	実績	見込	実績 見込	実績
26 4～6	△ 8	△ 18	△ 6	5	△ 9	11	△ 10	△ 12	△ 2	△ 21	△ 40	△ 26	15	9	0	1	5	6
7～9	3	1	3	3	△ 3	6	△ 3	△ 1	0	9	7	14	10	△ 8	△ 11	16	5	△ 1
10～12	5	8	5	13	12	5	1	5	11	11	3	4	6	4	9	6	5	6
27 1～3	6	2	7	13	△ 5	8	7	4	4	3	△ 2	3	△ 6	2	10	△ 5	4	16
4～6	△ 3	△ 2		14	1		2	1		△ 8	5		△ 22	△ 16		1	2	
7～9	3			4			5			0			5			20		

注: 1) 無回答を除いて集計している(表2～7、表10も同じ)。

2) 平成27年2月調査から会社以外の法人(信用金庫、財団法人、病院等)を調査対象に加えたため(「Ⅲ利用上の注意」1を参照)、時系列分析の際には特に「医療、福祉」について注意が必要である(他の表も同じ)。

(2) 所定外労働時間

所定外労働時間判断D.I.(平成27年4～6月期実績見込)は、調査産業計マイナス1ポイント、建設業4ポイント、製造業マイナス2ポイント、卸売業、小売業1ポイント、医療、福祉マイナス5ポイント、サービス業マイナス10ポイントとなった。

所定外労働時間判断D.I.(平成27年7～9月期見込)は、調査産業計マイナス2ポイント、建設業4ポイント、製造業0ポイント、卸売業、小売業マイナス4ポイント、医療、福祉マイナス10ポイント、サービス業10ポイントとなった。(表2、第2図、付属統計表第2表)

表2 主な産業別所定外労働時間判断D.I.(季節調整値)

(「増加」-「減少」, 単位:ポイント)

期 間 年 月 (平成)	調査産業計			建設業			製造業			卸売業, 小売業			医療, 福祉			サービス業		
	見込	実績 見込	実績	見込	実績 見込	実績	見込	実績 見込	実績	見込	実績 見込	実績	見込	実績 見込	実績	見込	実績 見込	実績
26 4～6	△ 2	△ 9	4	1	0	8	△ 7	△ 9	1	△ 3	△ 15	6	5	0	7	1	0	3
7～9	1	△ 1	3	2	△ 1	5	△ 3	△ 1	1	4	△ 5	6	4	4	6	3	3	4
10～12	2	4	8	9	6	10	△ 4	4	11	6	5	8	△ 1	4	13	3	△ 1	5
27 1～3	2	5	9	11	5	17	5	1	2	△ 1	0	8	1	11	13	△ 4	11	16
4～6	1	△ 1		8	4		△ 2	△ 2		3	1		△ 5	△ 5		△ 2	△ 10	
7～9	△ 2			4			0			△ 4			△ 10			10		

注: 「医療、福祉」については表1の注2)を参照。

(3) 正社員等雇用

正社員等雇用判断D.I.(平成27年4～6月期実績見込)は、調査産業計11ポイント、建設業13ポイント、製造業13ポイント、卸売業、小売業3ポイント、医療、福祉23ポイント、サービス業10ポイントとなった。

正社員等雇用判断D.I.(平成27年7～9月期見込)は、調査産業計6ポイント、建設業11ポイント、製造業7ポイント、卸売業、小売業4ポイント、医療、福祉0ポイント、サービス業3ポイントとなった。(表3、第3図、付属統計表第2表)

なお、正社員等雇用判断D.I.(平成27年1～3月期実績)については、製造業及び卸売業、小売業がマイナスからプラスに転じるなど、医療、福祉を除く主要産業でプラスとなった。

表3 主な産業別正社員等雇用判断D.I.(季節調整値)

(「増加」-「減少」, 単位:ポイント)

期 間 年 月 (平成)	調査産業計			建設業			製造業			卸売業, 小売業			医療, 福祉			サービス業		
	見込	実績 見込	実績	見込	実績 見込	実績	見込	実績 見込	実績	見込	実績 見込	実績	見込	実績 見込	実績	見込	実績 見込	実績
26 4～6	6	7	△ 1	16	15	10	4	6	△ 1	4	6	△ 3	9	8	0	9	4	0
7～9	3	3	△ 2	2	8	6	3	3	△ 4	1	2	△ 4	9	4	1	4	5	6
10～12	4	3	△ 1	5	7	4	5	3	△ 2	1	3	△ 3	6	14	△ 4	3	4	0
27 1～3	3	3	0	7	9	10	5	6	3	△ 1	3	2	8	△ 10	△ 13	4	5	13
4～6	11	11		14	13		11	13		6	3		24	23		10	10	
7～9	6			11			7			4			0			3		

注: 「医療, 福祉」については表1の注2)を参照。

(4) パートタイム雇用

パートタイム雇用判断D.I.(平成27年4～6月期実績見込)は、調査産業計1ポイント、建設業5ポイント、製造業2ポイント、卸売業、小売業マイナス1ポイント、医療、福祉5ポイント、サービス業5ポイントとなった。

パートタイム雇用判断D.I.(平成27年7～9月期見込)は、調査産業計1ポイント、建設業マイナス1ポイント、製造業1ポイント、卸売業、小売業0ポイント、医療、福祉4ポイント、サービス業3ポイントとなった。(表4、第4図、付属統計表第2表)

表4 主な産業別パートタイム雇用判断D.I.(季節調整値)

(「増加」-「減少」, 単位:ポイント)

期 間 年 月 (平成)	調査産業計			建設業			製造業			卸売業, 小売業			医療, 福祉			サービス業		
	見込	実績 見込	実績	見込	実績 見込	実績	見込	実績 見込	実績	見込	実績 見込	実績	見込	実績 見込	実績	見込	実績 見込	実績
26 4～6	2	6	0	△ 1	4	2	1	2	2	7	8	△ 2	9	8	△ 4	4	6	4
7～9	2	4	△ 2	1	1	△ 3	1	2	3	4	8	△ 7	6	0	△ 6	1	0	△ 1
10～12	2	2	△ 2	1	△ 1	△ 1	0	2	△ 3	3	2	△ 7	4	11	0	1	△ 3	7
27 1～3	3	4	0	△ 1	0	2	2	1	0	3	1	△ 2	9	0	0	1	5	0
4～6	0	1		0	5		0	2		△ 2	△ 1		4	5		2	5	
7～9	1			△ 1			1			0			4			3		

注: 「医療, 福祉」については表1の注2)を参照。

2 労働者の過不足状況

(1) 正社員等労働者

平成27年5月1日現在の正社員等労働者過不足判断D.I.をみると、調査産業計で28ポイントと16期連続して不足超過となり、全ての産業で不足超過となった(表5、第5図、付属統計表第3-1表)。

表5 産業別正社員等労働者過不足状況と判断D. I.

(「不足」-「過剰」, 単位:%、ポイント)

産業	平成26年11月調査			平成27年2月調査			平成27年5月調査		
	不足	過剰	D. I.	不足	過剰	D. I.	不足	過剰	D. I.
調査産業計	27	5	22	35	4	31	33	5	28
建設業	42	2	40	41	3	38	40	6	34
製造業	23	6	17	30	6	24	30	6	24
情報通信業	32	1	31	35	5	30	36	2	34
運輸業, 郵便業	46	3	43	48	1	47	46	1	45
卸売業, 小売業	17	6	11	22	5	17	17	4	13
金融業, 保険業	12	1	11	30	-	30	28	2	26
不動産業, 物品賃貸業	25	3	22	34	2	32	29	2	27
学術研究, 専門・技術サービス業	42	4	38	37	2	35	35	2	33
宿泊業, 飲食サービス業	33	5	28	33	3	30	31	2	29
生活関連サービス業, 娯楽業	24	5	19	29	7	22	33	3	30
医療, 福祉	42	3	39	52	4	48	45	8	37
サービス業	35	2	33	35	5	30	36	3	33

(2) パートタイム労働者

平成27年5月1日現在のパートタイム労働者過不足判断D.I.をみると、調査産業計で27ポイントと23期連続して不足超過となり、全ての産業で不足超過となる中、特に「宿泊業, 飲食サービス業」などで人手不足を感じている事業所が多い(表6、第5図、付属統計表第3-1表)。

表6 産業別パートタイム労働者過不足状況と判断D. I.

(「不足」-「過剰」, 単位:%、ポイント)

産業	平成26年11月調査			平成27年2月調査			平成27年5月調査		
	不足	過剰	D. I.	不足	過剰	D. I.	不足	過剰	D. I.
調査産業計	28	2	26	31	2	29	29	2	27
建設業	4	-	4	3	1	2	4	-	4
製造業	19	3	16	22	2	20	20	3	17
情報通信業	9	4	5	4	5	△ 1	10	1	9
運輸業, 郵便業	28	1	27	29	1	28	30	-	30
卸売業, 小売業	41	2	39	41	2	39	39	1	38
金融業, 保険業	22	1	21	11	-	11	18	1	17
不動産業, 物品賃貸業	23	2	21	24	1	23	24	-	24
学術研究, 専門・技術サービス業	11	3	8	7	-	7	8	2	6
宿泊業, 飲食サービス業	49	4	45	61	8	53	57	2	55
生活関連サービス業, 娯楽業	33	1	32	36	5	31	38	1	37
医療, 福祉	45	2	43	38	2	36	31	4	27
サービス業	35	1	34	45	-	45	40	3	37

3 未充足求人状況

(1) 産業別未充足求人の有無

平成27年5月1日現在の未充足求人が有る事業所の割合を産業別にみると、「医療, 福祉」(68%)、「宿泊業, 飲食サービス業」(59%)、「サービス業」(57%)などで高かった(表7)。

(2) 産業別欠員率

平成27年5月1日現在の欠員率を産業別にみると、「サービス業」(6.2%)、「宿泊業, 飲食サービス業」(4.7%)、「運輸業, 郵便業」(3.9%)などで高かった(表7、付属統計表第4表)。

表7 産業別未充足求人の有無別事業所割合及び産業別欠員率(平成27年5月1日現在)

(単位:%)

産業	計	未充足求人(注1)		欠員率(注2)
		有り	無し	
調査産業計	100	46	54	2.7
建設業	100	31	69	2.1
製造業	100	36	64	1.2
情報通信業	100	26	74	1.3
運輸業, 郵便業	100	52	49	3.9
卸売業, 小売業	100	44	56	2.5
金融業, 保険業	100	18	82	1.2
不動産業, 物品賃貸業	100	41	59	1.7
学術研究, 専門・技術サービス業	100	33	67	1.4
宿泊業, 飲食サービス業	100	59	41	4.7
生活関連サービス業, 娯楽業	100	48	52	3.7
医療, 福祉	100	68	32	2.7
サービス業	100	57	43	6.2

注: 1) 未充足求人の有無別事業所割合は、不明を除いて集計している。

2) 欠員率は、未充足求人がない事業所も含めて集計している。

3) 網掛け部分は他の産業と比べ事業所の割合が高くなっているところを示す。

4 雇用調整等

(1) 実施割合の推移

雇用調整を実施した事業所の割合は、平成27年1～3月実績で調査産業計は28%となり、前年同期と同じであった。(表8、表9、第6図、付属統計表第6表)。

表8 産業別雇用調整の実績(予定)のある事業所割合

(単位：%)

産 業	平成26年				平成27年		
	1～3月期 実績	4～6月 実績	7～9月期 実績	10～12月期 実績	1～3月期 実績	4～6月期 予定	7～9月期 予定
調 査 産 業 計	28 (31)	27 (31)	27 (30)	30 (28)	28 (28)	28 (28)	22 (24)
建 設 業	18 (19)	18 (19)	19 (21)	26 (21)	15 (18)	14 (17)	12 (15)
製 造 業	31 (39)	30 (36)	31 (31)	32 (30)	33 (31)	32 (31)	26 (24)
情 報 通 信 業	28 (28)	26 (34)	31 (35)	27 (31)	25 (28)	32 (26)	28 (25)
運 輸 業 , 郵 便 業	27 (28)	28 (30)	33 (30)	27 (25)	27 (27)	27 (26)	21 (23)
卸 売 業 , 小 売 業	26 (28)	26 (30)	23 (30)	33 (27)	27 (26)	24 (27)	19 (24)
金 融 業 , 保 険 業	34 (41)	25 (37)	19 (39)	27 (38)	22 (34)	24 (31)	18 (34)
不 動 産 業 , 物 品 賃 貸 業	23 (29)	29 (32)	30 (25)	27 (26)	23 (23)	28 (22)	17 (21)
学 術 研 究 , 専 門 ・ 技 術 サ ー ビ ス 業	26 (28)	28 (29)	28 (25)	29 (24)	28 (26)	29 (26)	27 (22)
宿 泊 業 , 飲 食 サ ー ビ ス 業	29 (23)	25 (24)	19 (23)	16 (27)	15 (29)	16 (24)	9 (22)
生 活 関 連 サ ー ビ ス 業 , 娯 楽 業	22 (22)	18 (19)	20 (18)	19 (18)	19 (22)	19 (16)	13 (16)
医 療 , 福 祉	18 (25)	20 (21)	27 (25)	31 (21)	32 (18)	33 (19)	24 (16)
サ ー ビ ス 業	32 (30)	29 (30)	28 (36)	26 (31)	21 (32)	18 (30)	18 (27)

注:1) 表9の表頭に示す「雇用調整の方法」のうち、いずれか1つ以上を実施した又は予定がある事業所の割合である。

2) ()は前年同期の数値である。

3) 無回答を「実施していない又は予定がない」とみなして集計している(表9も同じ)。

(2) 実施方法

平成27年1～3月期に雇用調整を実施した事業所(28%)のうち「事業活動縮小によるもの」は、2%となった。

また、雇用調整の実施方法(複数回答)別をみると、調査産業計では配置転換(15%)が最も高かった。(表9、付属統計表第6表)

表9 産業別雇用調整等の方法別実施事業所割合
(平成27年1～3月期実績)

複数回答(単位：%)

産 業	雇用調整を 実施した (注1)	雇用調整の方法								
		残業規制	休日の振替、夏期休暇等の休日・休暇の増加	臨時、パートタイム労働者の再契約停止・解雇	新規学卒者の採用の抑制・停止	中途採用の削減・停止	配置転換	出 向	一時休業(一時帰休)	希望退職者の募集、解雇
調 査 産 業 計	28 < 2 >	10 < 1 >	8 < 0 >	2 < 0 >	1 < 0 >	1 < 0 >	15 < 1 >	7 < 0 >	0 < 0 >	1 < 0 >
建 設 業	15 < - >	6 < - >	7 < - >	1 < - >	- < - >	- < - >	7 < - >	4 < - >	1 < - >	- < - >
製 造 業	33 < 5 >	12 < 3 >	6 < 0 >	2 < 1 >	2 < 1 >	2 < 1 >	18 < 1 >	10 < 0 >	1 < 0 >	1 < 1 >
情 報 通 信 業	25 < 1 >	13 < - >	11 < - >	- < - >	- < - >	1 < - >	11 < 1 >	12 < 1 >	- < - >	1 < - >
運 輸 業 , 郵 便 業	27 < 1 >	8 < 0 >	11 < - >	1 < - >	1 < 0 >	0 < 0 >	10 < 0 >	6 < 0 >	- < - >	5 < - >
卸 売 業 , 小 売 業	27 < 2 >	11 < 1 >	3 < - >	1 < 0 >	1 < - >	1 < - >	15 < 0 >	5 < - >	- < - >	1 < 0 >
金 融 業 , 保 険 業	22 < - >	4 < - >	6 < - >	1 < - >	- < - >	- < - >	15 < - >	12 < - >	1 < - >	1 < - >
不 動 産 業 , 物 品 賃 貸 業	23 < 1 >	10 < 1 >	10 < - >	2 < - >	- < - >	1 < - >	9 < 1 >	6 < - >	- < - >	1 < - >
学 術 研 究 , 専 門 ・ 技 術 サ ー ビ ス 業	28 < 2 >	8 < 1 >	8 < - >	1 < 1 >	- < - >	1 < 1 >	12 < 1 >	13 < - >	1 < - >	4 < - >
宿 泊 業 , 飲 食 サ ー ビ ス 業	15 < 1 >	5 < 1 >	6 < - >	1 < - >	1 < - >	- < - >	6 < - >	2 < - >	1 < - >	- < - >
生 活 関 連 サ ー ビ ス 業 , 娯 楽 業	19 < 2 >	5 < - >	10 < - >	2 < 1 >	- < - >	- < - >	8 < - >	4 < - >	- < - >	1 < 1 >
医 療 , 福 祉	32 < 1 >	7 < 0 >	13 < - >	2 < - >	2 < - >	1 < 0 >	18 < - >	3 < - >	0 < - >	2 < - >
サ ー ビ ス 業	21 < 1 >	8 < - >	9 < - >	4 < - >	2 < - >	1 < - >	9 < 1 >	3 < - >	- < - >	- < - >
平成26年10～12月期実績(調査産業計)	30 < 2 >	11 < 1 >	10 < 0 >	2 < 0 >	2 < 0 >	2 < 0 >	15 < 1 >	8 < 0 >	1 < 0 >	2 < 0 >

産 業	その他の調整を実施した(注2)	その他の調整方法			
		所定内労働時間の短縮(注3)	賃金等労働費用の削減	下請・外注の削減	派遣労働者の削減
調 査 産 業 計	5 < 1 >	1 < 0 >	1 < 0 >	1 < 0 >	3 < 1 >
建 設 業	2 < - >	- < - >	1 < - >	0 < - >	0 < - >
製 造 業	8 < 2 >	1 < 0 >	1 < 0 >	3 < - >	6 < 1 >
情 報 通 信 業	2 < - >	- < - >	- < - >	1 < - >	2 < - >
運 輸 業 , 郵 便 業	6 < - >	1 < - >	2 < - >	1 < - >	3 < - >
卸 売 業 , 小 売 業	3 < 1 >	0 < 0 >	0 < - >	- < - >	2 < 1 >
金 融 業 , 保 険 業	1 < - >	- < - >	- < - >	- < - >	1 < - >
不 動 産 業 , 物 品 賃 貸 業	1 < - >	1 < - >	- < - >	- < - >	1 < - >
学 術 研 究 , 専 門 ・ 技 術 サ ー ビ ス 業	6 < 3 >	1 < 1 >	- < - >	3 < 1 >	3 < 2 >
宿 泊 業 , 飲 食 サ ー ビ ス 業	6 < 1 >	4 < 1 >	- < - >	1 < - >	2 < - >
生 活 関 連 サ ー ビ ス 業 , 娯 楽 業	3 < 1 >	2 < - >	1 < 1 >	1 < - >	- < - >
医 療 , 福 祉	4 < 0 >	1 < - >	1 < - >	- < - >	2 < 0 >
サ ー ビ ス 業	1 < 1 >	- < - >	- < - >	- < - >	1 < 1 >
平成26年10～12月期実績(調査産業計)	4 < 1 >	1 < 0 >	1 < 0 >	1 < 0 >	2 < 0 >

注:1)「雇用調整の方法」のうちいずれか1つ以上を実施した事業所の割合である。

2)「その他の調整方法」のうちいずれか1つ以上を実施した事業所の割合である。

3)「所定内労働時間の短縮」については、平成26年11月調査以前は「操業時間・日数の短縮」として調査した。

4) < >は、「事業活動縮小によるもの」の数値である。「事業活動縮小によるもの」は、平成27年2月調査から調査を開始した。

5 中途採用

中途採用の実績が「あり」とした事業所の割合(平成27年1～3月期実績)は、調査産業計で63%となり、前年同期より増加した(表10、第7図)。

表10 産業別中途採用の実績(予定)がある事業所割合

(単位:%)

産 業	平成26年10～12月期実績	平成27年1～3月期実績	平成27年4～6月期予定	平成27年7～9月期予定
調 査 産 業 計	66 (56)	63 (54)	63 (55)	44 (32)
建 設 業	46 (44)	49 (40)	50 (51)	27 (14)
製 造 業	60 (49)	57 (48)	58 (51)	37 (22)
情 報 通 信 業	49 (49)	48 (46)	57 (50)	38 (27)
運 輸 業 , 郵 便 業	69 (69)	61 (63)	61 (60)	46 (46)
卸 売 業 , 小 売 業	64 (54)	55 (54)	54 (52)	37 (33)
金 融 業 , 保 険 業	53 (61)	53 (52)	56 (58)	39 (42)
不 動 産 業 , 物 品 賃 貸 業	63 (61)	61 (74)	56 (62)	30 (34)
学 術 研 究 , 専 門 ・ 技 術 サ ー ビ ス 業	65 (53)	60 (43)	64 (53)	37 (25)
宿 泊 業 , 飲 食 サ ー ビ ス 業	73 (70)	65 (67)	69 (61)	53 (45)
生 活 関 連 サ ー ビ ス 業 , 娯 楽 業	68 (54)	71 (58)	66 (59)	41 (39)
医 療 , 福 祉	85 (73)	86 (79)	85 (76)	61 (59)
サ ー ビ ス 業	70 (66)	76 (66)	71 (69)	58 (45)

注:()は前年同期の数値である。

(以下は今回の特別項目となります。)

6 平成28年新規学卒者の採用計画等

(1) 採用計画

平成28年新規学卒者の採用予定者数を平成27年新規学卒者の採用者数に比べて「増加」とする事業所の割合は、高校卒24%、高専・短大卒17%、大学卒(文科系)19%、大学卒(理科系)22%、大学院卒13%、専修学校卒14%となり、各学歴とも前年を上回った(表11、第8図、付属統計表第7表)。

「減少」とする事業所の割合は、高校卒4%、高専・短大卒2%、大学卒(文科系)3%、大学卒(理科系)3%、大学院卒2%、専修学校卒2%となった(表11、付属統計表第7表)。

表11 学歴、新規学卒採用予定者数の増減別事業所割合(調査産業計)
(平成28年新規学卒者)

(単位：%)

学歴	増加	ほぼ同じ	減少	未定	本社等でしか回答できない
高校卒	24 (17)	23 (21)	4 (4)	30 (30)	19 (28)
高専・短大卒	17 (10)	21 (18)	2 (2)	37 (36)	22 (34)
大学卒 (文科系)	19 (15)	25 (23)	3 (4)	30 (27)	23 (32)
大学卒 (理科系)	22 (18)	24 (22)	3 (3)	28 (26)	23 (31)
大学院卒	13 (9)	19 (19)	2 (2)	39 (33)	26 (36)
専修学校卒	14 (8)	16 (14)	2 (1)	42 (39)	25 (39)

注：1) 「平成28年新規学卒者」とは、平成28年3月卒業予定者又は概ね卒業後1年以内の者を新規学卒者とはほぼ同等の条件で平成28年度に採用する者をいう。

2) 「27年は採用しておらず28年も採用しない」及び無回答を除いて集計した。

3) ()は、平成26年5月調査の数値(平成26年5月1日現在)である。

(2) 採用予定者数の増加理由

平成28年新規学卒者の採用予定者数を「増加」とする事業所について、その理由(複数回答2つまで)を学歴別にみると、大学院卒以外では、「長期的に育成することが必要な基幹的業務を担う者の確保」が最も高く、大学院卒では「技術革新への対応・研究開発体制の充実」が最も高くなっている(表12)。

表12 学歴、新規学卒採用予定者数の増加理由別事業所割合(調査産業計)
(平成28年新規学卒者)

複数回答2つまで(単位：%)

学歴	経営状態の好転・既存事業の拡大・新規事業への進出	技術革新への対応・研究開発体制の充実	販売・営業部門の増強	年齢等人員構成の適正化	退職者の増加による補充	前年は新規学卒者の確保が十分でなかった	長期的に育成することが必要な基幹的業務を担う者の確保	その他	無回答
高校卒	21 (15)	5 (3)	7 (6)	34 (37)	26 (26)	16 (18)	38 (34)	3 (4)	2 (3)
高専・短大卒	21 (22)	16 (13)	8 (8)	21 (22)	26 (18)	17 (20)	31 (30)	2 (5)	4 (5)
大学卒 (文科系)	29 (30)	9 (4)	22 (38)	21 (20)	18 (12)	11 (12)	34 (29)	4 (3)	1 (2)
大学卒 (理科系)	29 (28)	29 (19)	10 (22)	21 (22)	16 (14)	12 (14)	33 (32)	3 (2)	2 (3)
大学院卒	32 (36)	34 (20)	5 (18)	19 (23)	14 (12)	10 (11)	29 (36)	4 (4)	3 (6)
専修学校卒	26 (18)	12 (5)	7 (16)	22 (16)	25 (9)	24 (16)	30 (43)	2 (6)	4 (10)

注：1) 数値は表11で「増加」と回答した事業所を100とした割合である。

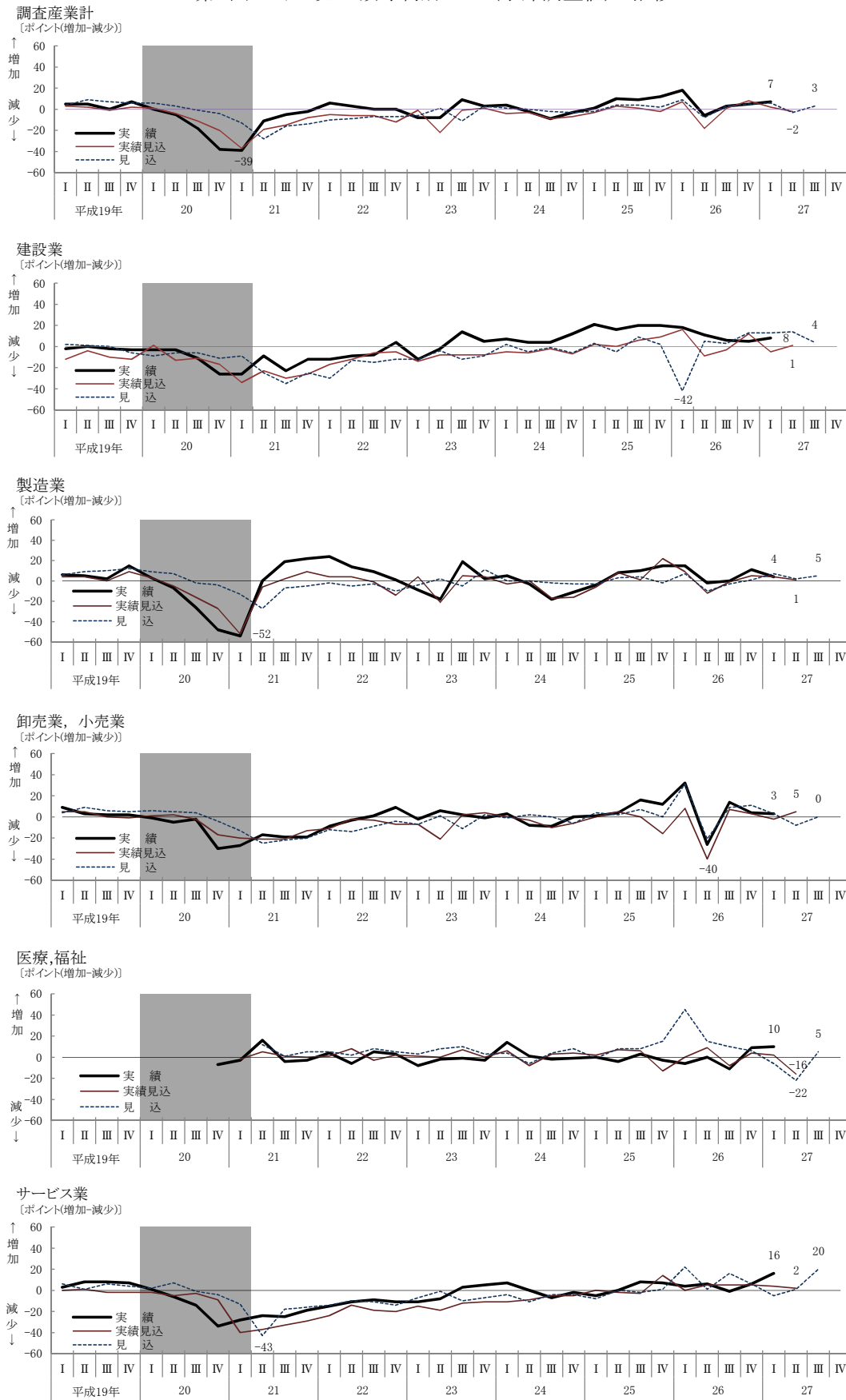
2) 網掛け部分は各学歴ごとで事業所の割合が最も高くなっているところを示す。

3) 「平成28年新規学卒者」とは、平成28年3月卒業予定者又は概ね卒業後1年以内の者を新規学卒者とはほぼ同等の条件で平成28年度に採用する者をいう。

4) ()は、平成26年5月調査の数値(平成26年5月1日現在)である。

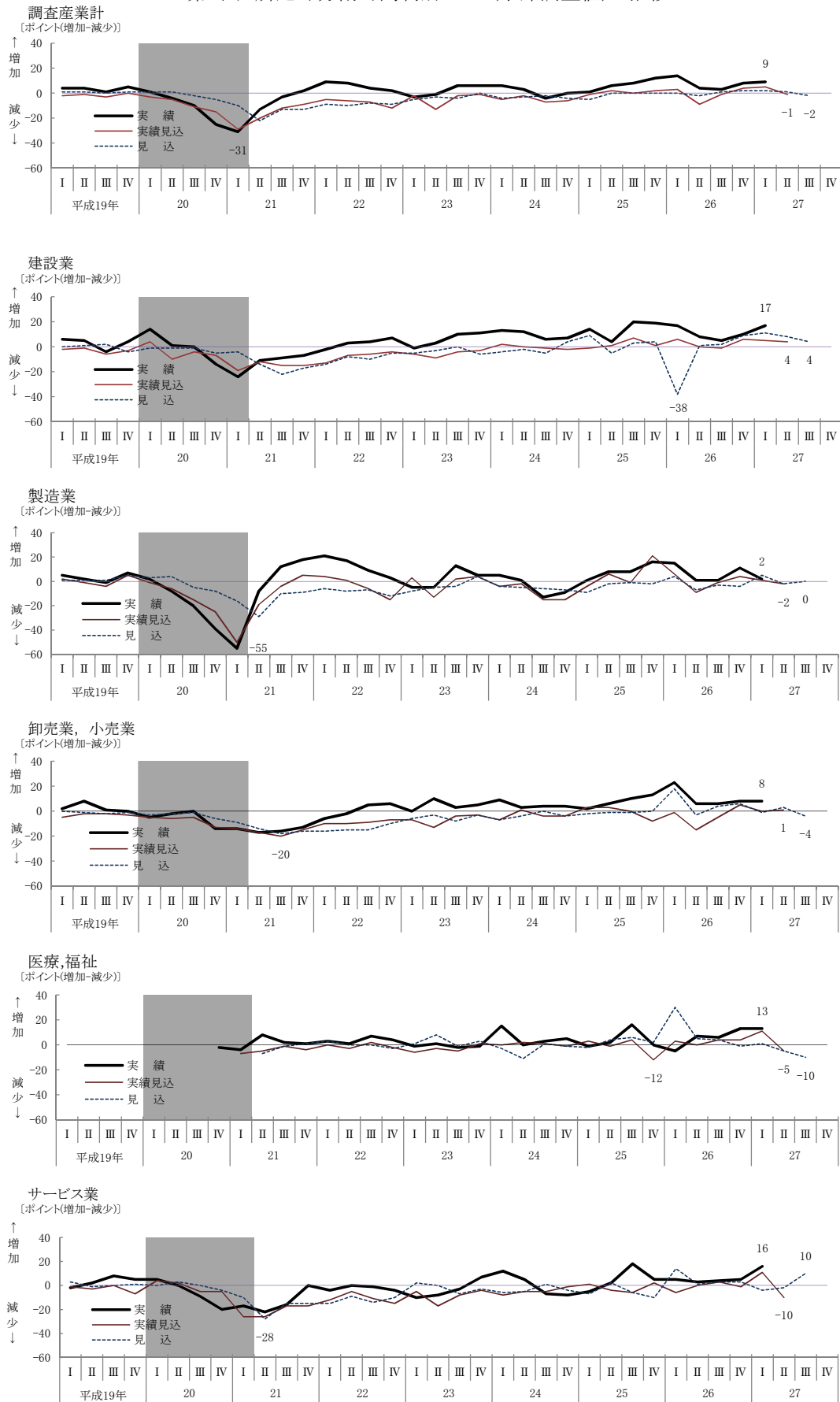
V 統計図表

第1図 生産・売上額等判断D. I. (季節調整値)の推移



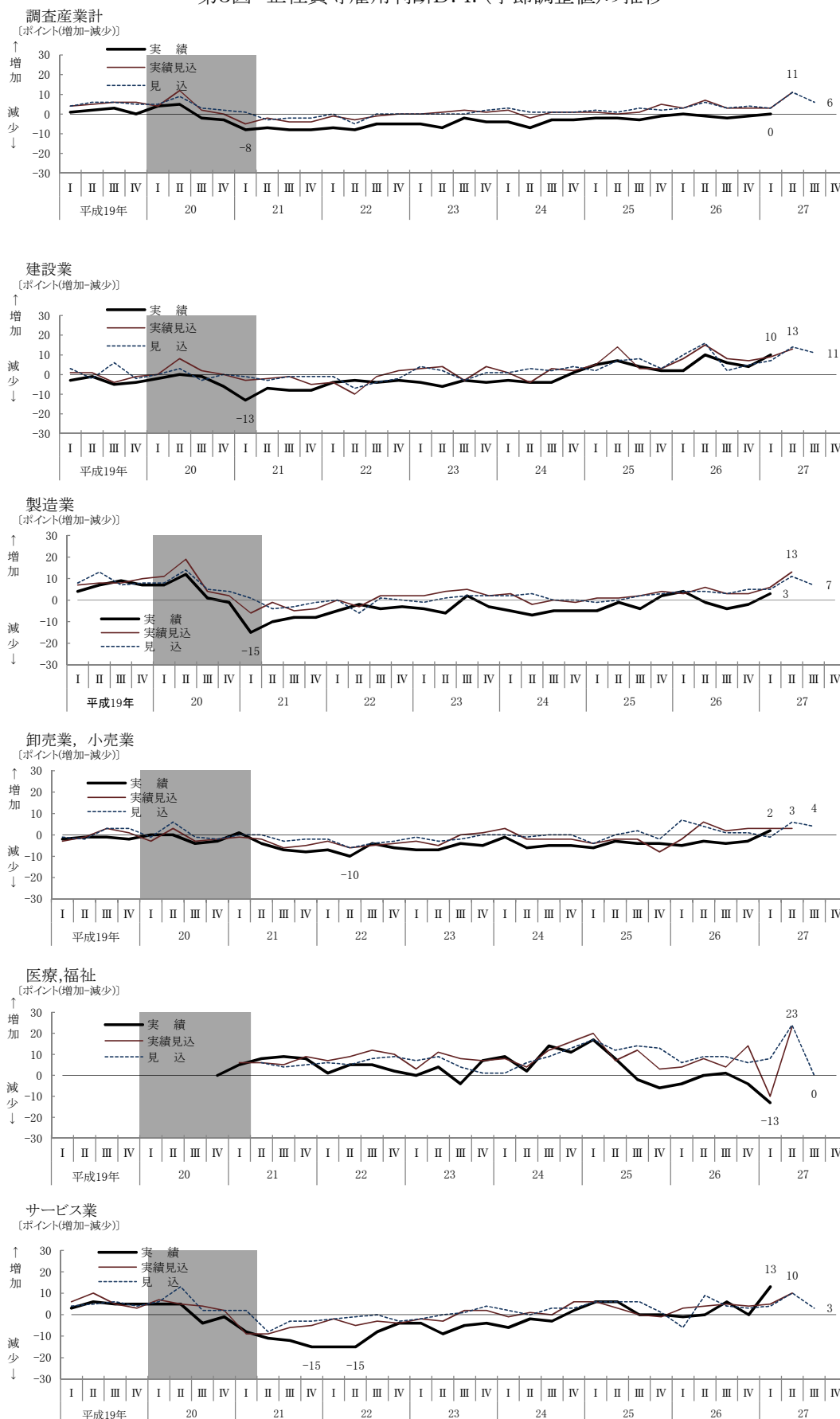
- 注:1)「生産・売上額等判断D.I.」とは、当該期を前期と比べて「増加」と回答した事業所の割合から「減少」と回答した事業所の割合を差し引いた値である。
- 2) ローマ数字は四半期(Ⅰ:1~3月、Ⅱ:4~6月、Ⅲ:7~9月、Ⅳ:10~12月)を示す(以下同じ)。
- 3) 網掛け部分は内閣府の景気基準日付による景気後退期(平成20年2月~平成21年3月)を示す(以下同じ)。
- 4) 「医療、福祉」については、平成21年2月調査より調査を開始した。そのため、実績は平成20年Ⅳ期、実績見込は平成21年Ⅰ期、見込は平成21年Ⅱ期からの数値となる。また、平成27年2月調査から会社以外の法人(信用金庫、財団法人、病院等)を調査対象に加えたため、時系列分析の際には注意が必要である。(以下同じ)。
- 5) 無回答を除いた集計による(第2図~第5図、第7図、第8図も同じ)。

第2図 所定外労働時間判断D. I. (季節調整値)の推移



注:1)「所定外労働時間判断D.I.」とは、当該期を前期と比べて「増加」と回答した事業所の割合から「減少」と回答した事業所の割合を差し引いた値である。
 2)「医療、福祉」については、平成21年2月調査より調査を開始した。そのため、実績は平成20年IV期、実績見込は平成21年I期、見込は平成21年II期からの数値となる。また、平成27年2月調査から会社以外の法人(信用金庫、財団法人、病院等)を調査対象に加えたため、時系列分析の際には注意が必要である。(以下同じ)。

第3図 正社員等雇用判断D. I. (季節調整値)の推移



注:1)「正社員等」については、平成19年11月調査以前は「常用」として調査していた。そのため、実績は平成19年IV期、実績見込は平成20年I期、見込は平成20年II期以降の数値とは厳密には接続しない。

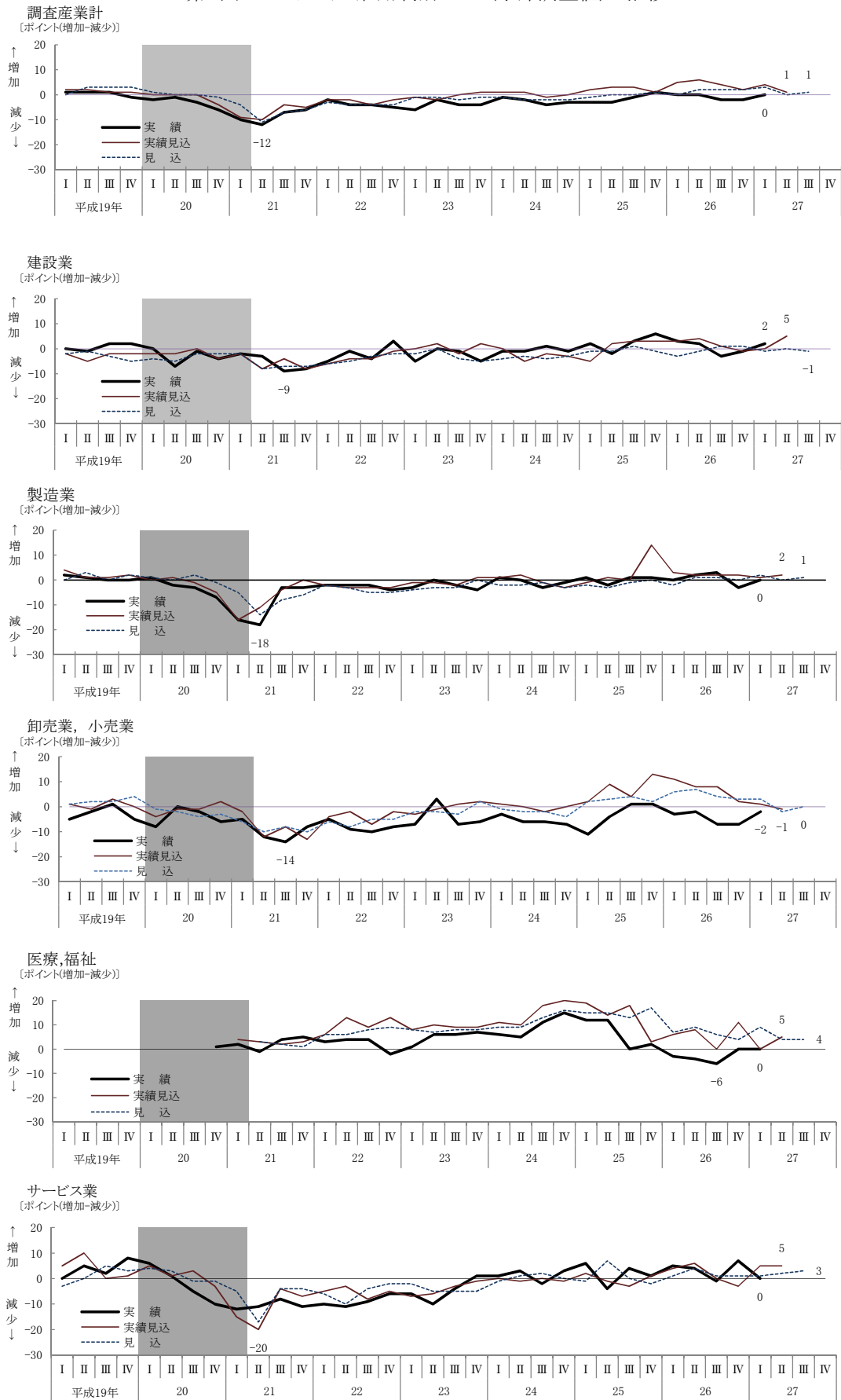
*「常用」・・・雇用期間を定めずに雇用されている者をいい、パートタイムは除く。

*「正社員等」・・・雇用期間を定めずに雇用されている者又は1年以上の期間の雇用契約を結んで雇用されている者をいい、パートタイムは除く。

2)「雇用判断D.I.」とは、当該期間末を前期間末と比べて「増加」と回答した事業所の割合から「減少」と回答した事業所の割合を差し引いた値である(第4図も同じ)。

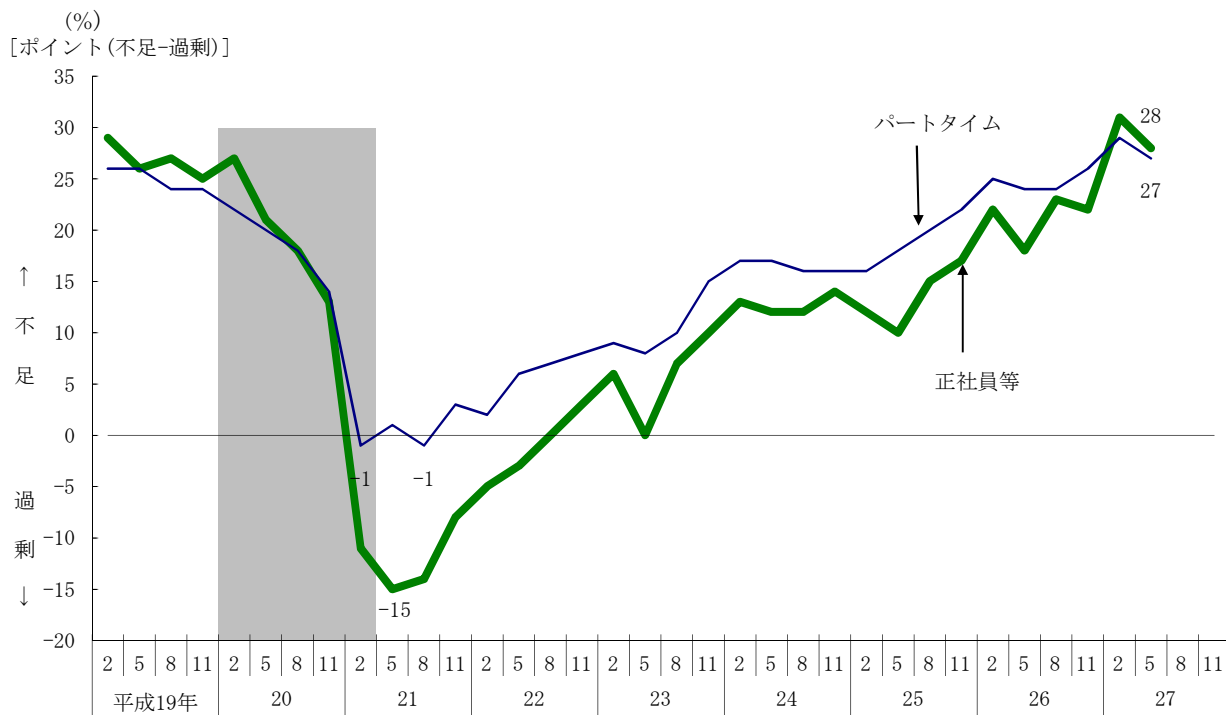
3)「医療、福祉」については、平成21年2月調査より調査を開始した。そのため、実績は平成20年IV期、実績見込は平成21年I期、見込は平成21年II期からの数値となる。また、平成27年2月調査から会社以外の法人(信用金庫、財団法人、病院等)を調査対象に加えたため、時系列分析の際には注意が必要である。(以下同じ)。

第4図 パートタイム雇用判断D. I. (季節調整値)の推移



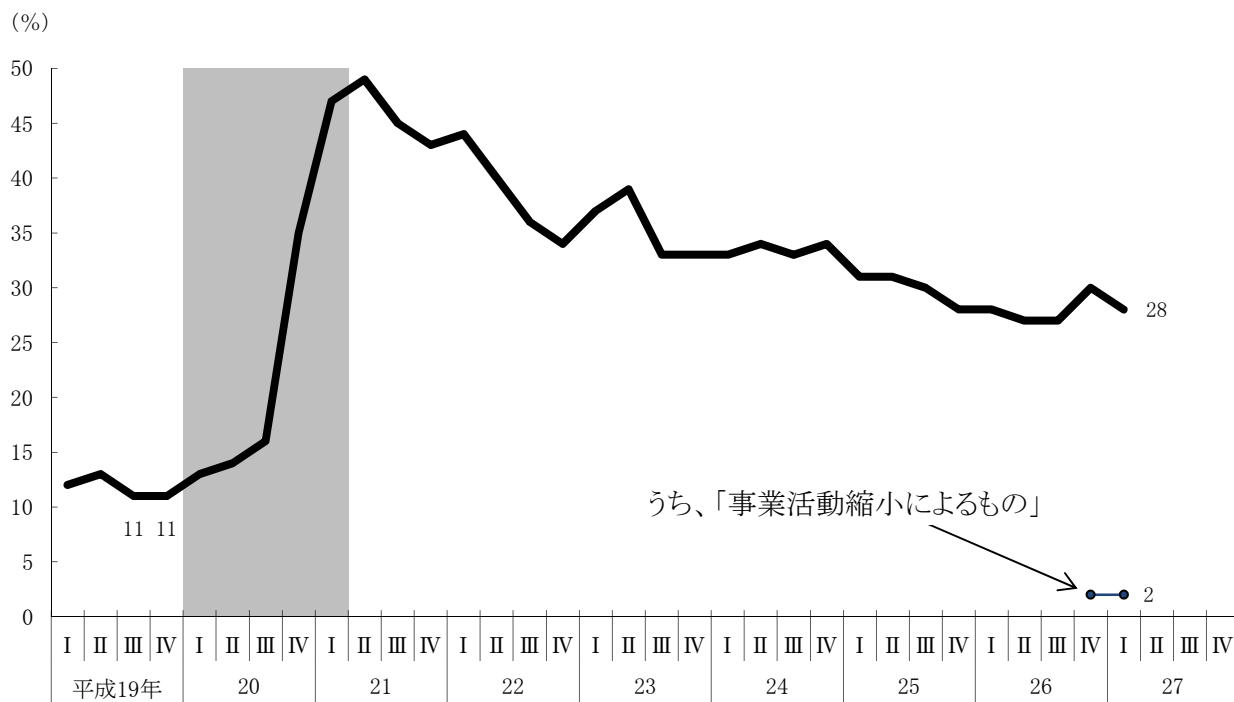
注:1)「医療,福祉」については、平成21年2月調査より調査を開始した。そのため、実績は平成20年IV期、実績見込は平成21年I期、見込は平成21年II期からの数値となる。また、平成27年2月調査から会社以外の法人(信用金庫、財団法人、病院等)を調査対象に加えたため、時系列分析の際には注意が必要である。(以下同じ)。

第5図 雇用形態別労働者過不足判断D. I. の推移(調査産業計)



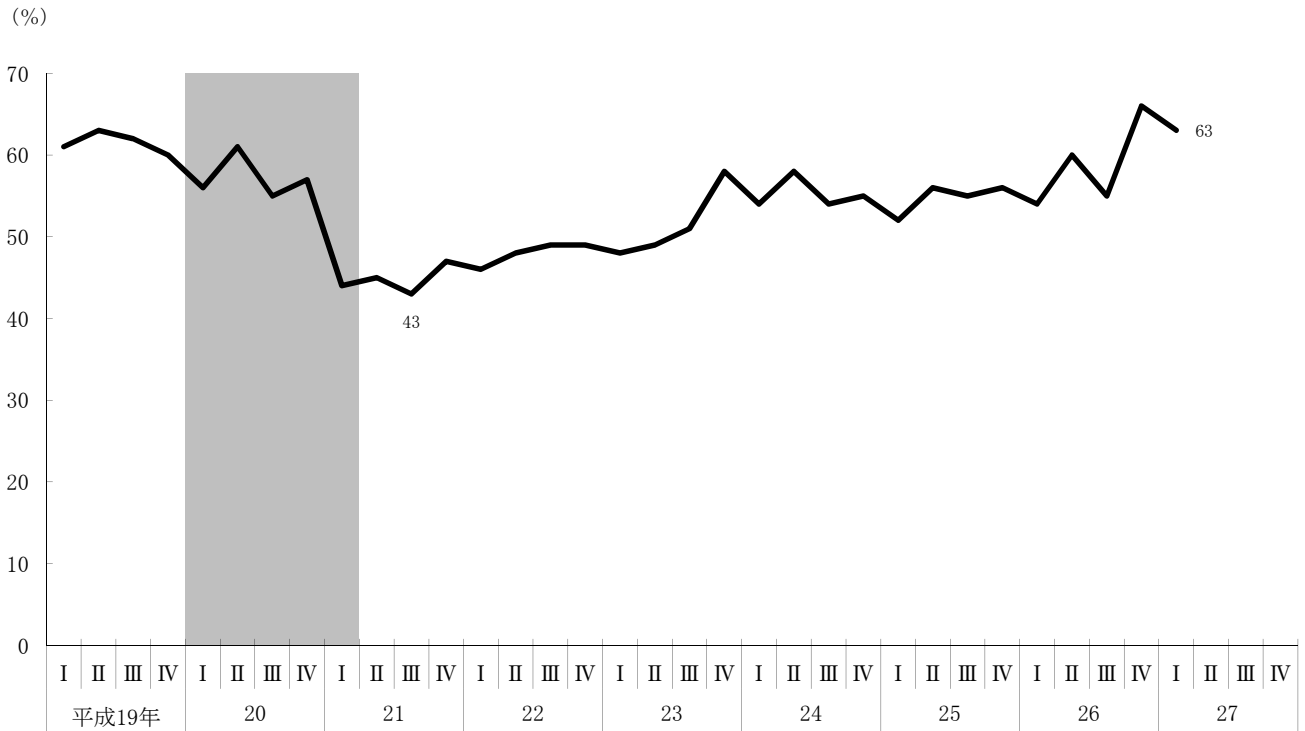
注:1「正社員等」については、平成19年11月調査以前は「常用」として調査していたため、平成20年2月調査以降の数値とは厳密には接続しない。
 *「常用」…雇用期間を定めずに雇用されている者をいう。パートタイムは除く。
 *「正社員等」…期間を定めずに雇用されている者又は1年以上の期間の雇用契約を結んで雇用されている者をいう。パートタイムは除く。
 2)平成20年11月調査以前の数値は「医療、福祉」を含まないため、平成21年2月調査以降の数値とは厳密には接続しない。
 3)「労働者過不足判断D.I.」とは、「不足」と回答した事業所の割合から「過剰」と回答した事業所の割合を差し引いた値である。

第6図 雇用調整実施事業所割合の推移(調査産業計・実績)

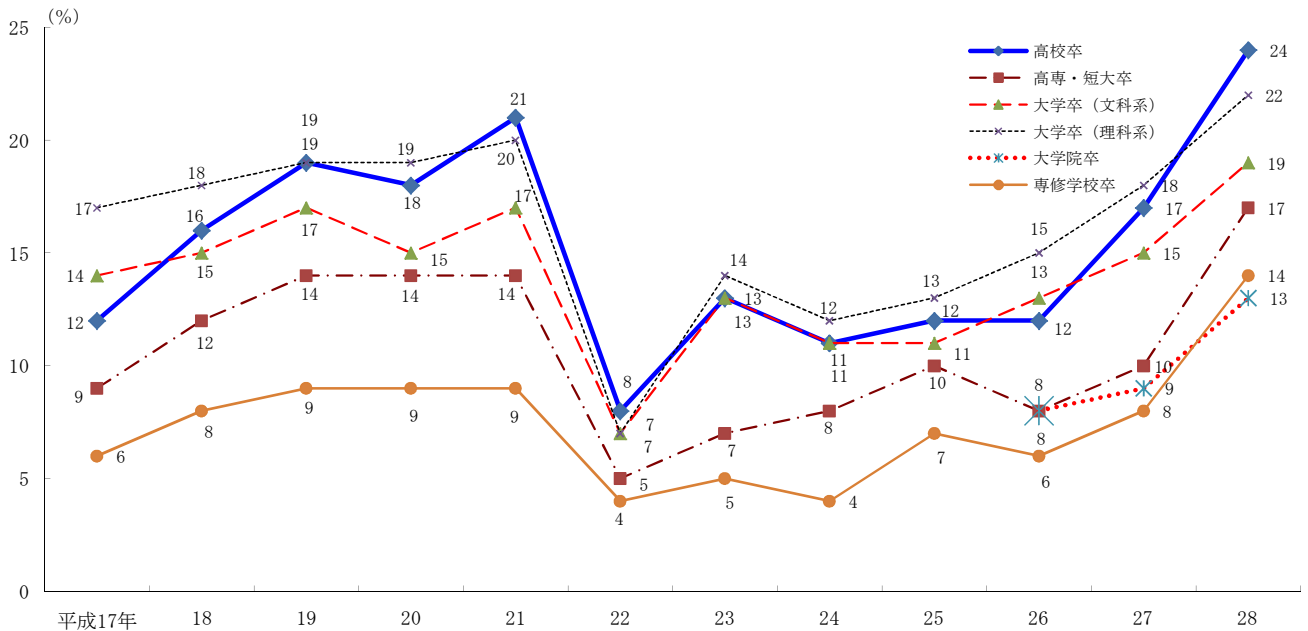


注:1平成20年IV期調査以前の数値は「医療、福祉」を含まないため、平成21年I期調査以降の数値とは厳密には接続しない(第7図も同じ)。
 2)無回答を「実施していない又は予定がない」とみなした集計による。

第7図 中途採用の実績がある事業所割合の推移(調査産業計・実績)



第8図 新規学卒採用予定者数の学歴別増加事業所割合の推移(調査産業計)



注:1) 平成20年調査以前の数値は「医療、福祉」を含まないため、平成21年調査以降の数値とは厳密には接続しない。

2) 「本年は採用しておらず次年も採用しない」*及び無回答を除いた集計による。

(*平成27年調査の場合は、「27年は採用しておらず28年も採用しない」)

3) 学歴区分については、大学卒(大学卒(文科系)、大学卒(理科系))に大学院卒を含めていたが、大学院進学者が増加したことから、平成25年調査より大学院卒を分離し、調査・集計した。そのため、平成24年調査以前の大学卒(大学卒(文科系)、大学卒(理科系))との数値の比較は、注意を要する。(なお、25年調査結果(26年)は、大学院卒8%、高専・短大卒8%とグラフが重なっている。)

第4表 産業、企業規模別欠員率（平成27年5月1日現在）

(単位：%)

産業、企業規模	欠員率
調査産業計	2.7
1,000人以上	2.1
300～999人	2.9
100～299人	3.1
30～99人	3.5
建設業	2.1
製造業	1.2
1,000人以上	0.7
300～999人	1.8
100～299人	1.2
30～99人	1.7
消費関連業種	2.7
素材関連業種	1.1
機械関連業種	0.5
情報通信業	1.3
運輸業，郵便業	3.9
卸売業，小売業	2.5
卸売業	0.8
小売業	3.6
金融業，保険業	1.2
不動産業，物品賃貸業	1.7
学術研究，専門・技術サービス業	1.4
宿泊業，飲食サービス業	4.7
生活関連サービス業，娯楽業	3.7
医療，福祉	2.7
サービス業	6.2

第5表 労働者の過不足程度別事業所割合(平成27年5月1日現在)

(単位: %)

雇用形態・職種	調査産業計					建設業					製造業					情報通信業									
	不足		適当	過剰		不足		適当	過剰		不足		適当	過剰		不足		適当	過剰						
	おおいに不足	やや不足		やや過剰	おおいに過剰	おおいに不足	やや不足		やや過剰	おおいに過剰	おおいに不足	やや不足		やや過剰	おおいに過剰	おおいに不足	やや不足		やや過剰	おおいに過剰					
常用労働者	4	34	58	4	0	3	36	55	6	-	2	30	62	6	0	5	30	64	1	1					
正社員等	3	30	62	4	0	4	36	55	6	-	1	29	65	5	0	5	32	62	1	1					
臨時	3	15	79	2	0	1	5	93	1	-	2	14	80	4	-	4	13	82	1	-					
パートタイム	5	24	69	2	0	-	4	96	-	-	4	17	77	3	-	1	9	89	1	-					
派遣労働者	1	10	82	6	1	1	3	92	3	-	1	13	79	6	1	1	9	87	4	-					
管理	0	10	86	4	0	1	9	87	3	-	0	10	84	6	0	-	9	89	1	1					
事務	0	13	83	3	0	-	10	84	6	-	-	11	84	5	0	-	12	86	2	1					
専門・技術	4	34	61	1	-	5	44	49	2	-	2	29	68	1	-	8	34	57	1	-					
販売	2	22	75	1	-	1	16	83	-	-	0	14	84	1	-	-	19	81	-	-					
サービス	6	27	65	2	0	-	9	91	-	-	0	6	93	1	-	-	11	89	-	-					
輸送・機械運転	5	20	75	1	-	-	19	81	-	-	2	8	90	0	-	-	4	91	4	-					
技能工	2	27	68	3	-	7	42	50	2	-	2	30	64	4	-	-	17	79	4	-					
単純工	6	25	64	5	0	5	29	66	-	-	5	27	60	7	0	12	-	84	4	-					
雇用形態・職種	運輸業、郵便業					卸売業、小売業					金融業、保険業					不動産業、物品賃貸業									
	不足		適当	過剰		不足		適当	過剰		不足		適当	過剰		不足		適当	過剰						
	おおいに不足	やや不足		やや過剰	おおいに過剰	おおいに不足	やや不足		やや過剰	おおいに過剰	おおいに不足	やや不足		やや過剰	おおいに過剰	おおいに不足	やや不足		やや過剰	おおいに過剰					
常用労働者	10	43	46	1	-	2	30	66	3	-	-	26	73	1	-	2	31	66	1	-					
正社員等	10	36	53	1	-	1	16	79	4	-	-	28	70	2	-	2	26	70	2	-					
臨時	7	28	65	-	1	1	15	83	1	-	-	4	93	3	-	-	15	85	-	-					
パートタイム	7	23	70	-	-	8	32	59	1	-	-	18	80	1	-	2	22	76	-	-					
派遣労働者	2	8	86	2	2	-	7	88	6	-	-	7	90	3	-	-	5	94	2	-					
管理	1	7	90	1	-	0	8	90	2	-	-	20	79	1	-	-	16	81	3	-					
事務	1	16	81	2	-	-	10	88	3	-	-	24	76	1	-	-	20	76	5	-					
専門・技術	3	13	84	-	-	1	18	80	1	-	-	24	74	2	-	1	40	59	-	-					
販売	4	4	93	-	-	5	35	58	1	-	-	23	77	-	-	2	35	63	-	-					
サービス	-	25	72	3	-	5	27	67	1	-	-	14	86	-	-	2	36	63	-	-					
輸送・機械運転	15	48	37	1	-	-	7	90	3	-	-	-	100	-	-	6	28	67	-	-					
技能工	-	16	84	-	-	-	7	93	-	-	-	-	100	-	-	-	18	82	-	-					
単純工	4	33	59	4	-	2	8	91	-	-	-	5	95	-	-	10	10	80	-	-					
雇用形態・職種	学術研究、専門・技術サービス業					宿泊業、飲食サービス業					生活関連サービス業、娯楽業					医療、福祉									
	不足		適当	過剰		不足		適当	過剰		不足		適当	過剰		不足		適当	過剰						
	おおいに不足	やや不足		やや過剰	おおいに過剰	おおいに不足	やや不足		やや過剰	おおいに過剰	おおいに不足	やや不足		やや過剰	おおいに過剰	おおいに不足	やや不足		やや過剰	おおいに過剰					
常用労働者	1	34	63	2	-	8	38	51	3	-	3	34	61	1	1	5	39	50	6	0					
正社員等	2	33	63	2	-	7	23	67	2	-	2	30	64	2	1	5	40	47	7	1					
臨時	-	8	88	3	-	10	19	67	4	-	-	14	84	1	-	2	15	83	1	-					
パートタイム	-	8	90	2	-	10	47	41	2	-	6	32	61	1	-	5	26	65	4	-					
派遣労働者	2	12	79	7	-	-	11	87	3	-	-	15	83	2	-	-	5	82	11	2					
管理	-	7	91	2	-	3	11	83	3	-	2	15	79	4	-	1	9	89	2	-					
事務	-	15	85	1	-	3	12	85	-	-	1	19	77	3	-	1	17	79	3	-					
専門・技術	2	35	61	1	-	5	44	51	-	-	4	22	74	-	-	5	48	43	4	-					
販売	-	16	84	-	-	7	36	56	2	-	2	15	83	-	-	-	-	100	-	-					
サービス	-	11	87	2	-	17	38	43	1	-	9	38	52	1	-	10	45	38	7	-					
輸送・機械運転	3	-	100	3	-	15	15	62	8	-	-	10	86	3	-	-	8	92	-	-					
技能工	3	15	79	3	-	-	22	78	-	-	-	20	80	-	-	-	13	87	-	-					
単純工	-	14	79	7	-	-	42	58	-	-	9	41	50	-	-	-	6	94	-	-					
雇用形態・職種	サービス業					〔職種〕 ※第3-2表、第5表ともに共通																			
	不足		適当	過剰																					
	おおいに不足	やや不足		やや過剰	おおいに過剰																				
常用労働者	9	38	51	2	-	管 理---課以上の組織の管理に従事する者 事 務---課長等管理職の指導、監督をうけて事務に従事する者(電話応接事務員を含む) 専門・技術---高度の専門的知識を応用し、技術的な業務、研究等に従事する者 販 売---商品、証券などの売買・営業、保険外交などに従事する者 サービス---調理・接客・給仕など個人に対するサービスに従事する者 輸送・機械---鉄道、自動車などで運転に従事する者及び車掌、並びに位置機関・機械及び建設機械運転 技能工---原材料の加工、各種機械器具の組み立て、修理、印刷、製本、建設機械を用いない建設作業などに従事する者のうち高度の熟練、判断力、責任を要する作業を行う者 単純工---上記「技能工」と同じ作業に従事しているが技能などの修得を要しない簡単な作業、単純な筋肉労働に従事する者																			
正社員等	3	33	60	3	-																				
臨時	11	18	68	4	-																				
パートタイム	9	31	57	3	1																				
派遣労働者	7	14	75	4	-																				
管理	1	13	82	4	-																				
事務	2	10	84	4	-																				
専門・技術	6	34	60	-	-																				
販売	-	19	75	6	-																				
サービス	9	39	49	1	1																				
輸送・機械運転	8	24	76	-	-																				
技能工	8	30	62	-	-																				
単純工	21	28	49	2	-																				

注:無回答を除いて集計している。

第7表 平成28年新規学卒採用予定者数の対前年増減区分別事業所割合
(平成27年5月1日現在)

(単位：%)

学歴・産業	計	増加	ほぼ同じ	減少	未定	本社等でしか回答できない	
高校卒	調査産業計	100	24 (17)	23 (21)	4 (4)	30 (30)	19 (28)
	建設業	100	32 (26)	19 (18)	5 (4)	25 (29)	19 (23)
	製造業	100	30 (22)	29 (29)	5 (6)	27 (32)	9 (12)
	情報通信業	100	13 (6)	13 (27)	- (4)	46 (37)	29 (25)
	運輸業, 郵便業	100	16 (13)	16 (11)	2 (5)	23 (21)	44 (51)
	卸売業, 小売業	100	21 (9)	13 (16)	6 (2)	26 (26)	34 (47)
	金融業, 保険業	100	6 (3)	20 (6)	- (1)	41 (49)	33 (40)
	不動産業, 物品賃貸業	100	11 (11)	9 (7)	7 (2)	44 (52)	30 (27)
	学術研究, 専門・技術サービス業	100	16 (19)	23 (15)	5 (4)	36 (33)	19 (28)
	宿泊業, 飲食サービス業	100	24 (17)	15 (23)	3 (4)	38 (34)	20 (23)
	生活関連サービス業, 娯楽業	100	32 (12)	15 (24)	1 (2)	37 (43)	14 (18)
	医療, 福祉サービス業	100	23 (21)	24 (20)	3 (1)	39 (41)	10 (17)
	100	18 (19)	22 (19)	2 (-)	32 (35)	26 (28)	
高専・短大卒	調査産業計	100	17 (10)	21 (18)	2 (2)	37 (36)	22 (34)
	建設業	100	26 (16)	15 (21)	1 (-)	36 (36)	23 (27)
	製造業	100	16 (10)	22 (19)	3 (3)	42 (45)	18 (23)
	情報通信業	100	23 (19)	24 (33)	- (1)	35 (32)	18 (14)
	運輸業, 郵便業	100	7 (9)	12 (7)	1 (2)	30 (26)	50 (55)
	卸売業, 小売業	100	17 (7)	18 (18)	4 (1)	27 (28)	34 (45)
	金融業, 保険業	100	6 (3)	23 (37)	1 (-)	46 (27)	24 (34)
	不動産業, 物品賃貸業	100	9 (14)	9 (12)	5 (-)	49 (47)	28 (27)
	学術研究, 専門・技術サービス業	100	20 (19)	28 (23)	- (3)	38 (29)	14 (26)
	宿泊業, 飲食サービス業	100	20 (15)	15 (20)	3 (3)	40 (34)	22 (28)
	生活関連サービス業, 娯楽業	100	11 (6)	25 (24)	- (-)	48 (49)	15 (22)
	医療, 福祉サービス業	100	24 (19)	29 (18)	2 (1)	37 (45)	7 (18)
	100	11 (10)	18 (10)	1 (-)	37 (49)	33 (32)	
大学卒(文科系)	調査産業計	100	19 (15)	25 (23)	3 (4)	30 (27)	23 (32)
	建設業	100	22 (17)	21 (24)	1 (3)	31 (27)	25 (28)
	製造業	100	16 (11)	26 (23)	4 (5)	30 (34)	23 (27)
	情報通信業	100	29 (21)	37 (43)	3 (5)	18 (20)	13 (11)
	運輸業, 郵便業	100	14 (12)	16 (11)	2 (4)	25 (21)	42 (52)
	卸売業, 小売業	100	23 (19)	25 (24)	5 (3)	18 (16)	28 (38)
	金融業, 保険業	100	28 (32)	31 (29)	3 (1)	22 (14)	16 (23)
	不動産業, 物品賃貸業	100	19 (24)	35 (29)	3 (5)	25 (25)	18 (17)
	学術研究, 専門・技術サービス業	100	16 (14)	47 (22)	2 (4)	21 (33)	15 (26)
	宿泊業, 飲食サービス業	100	18 (14)	16 (29)	1 (4)	41 (26)	23 (26)
	生活関連サービス業, 娯楽業	100	26 (10)	13 (28)	4 (5)	44 (37)	14 (21)
	医療, 福祉サービス業	100	18 (15)	25 (16)	2 (2)	43 (48)	12 (20)
	100	14 (10)	19 (14)	2 (2)	32 (45)	33 (29)	
大学卒(理科系)	調査産業計	100	22 (18)	24 (22)	3 (3)	28 (26)	23 (31)
	建設業	100	34 (26)	19 (26)	3 (1)	23 (23)	21 (23)
	製造業	100	26 (19)	24 (24)	3 (5)	26 (29)	21 (24)
	情報通信業	100	30 (22)	38 (46)	3 (2)	17 (19)	12 (11)
	運輸業, 郵便業	100	13 (10)	15 (8)	1 (2)	26 (23)	45 (56)
	卸売業, 小売業	100	24 (18)	20 (21)	4 (1)	22 (19)	30 (41)
	金融業, 保険業	100	27 (31)	30 (24)	1 (-)	25 (18)	17 (27)
	不動産業, 物品賃貸業	100	14 (26)	34 (20)	1 (4)	30 (30)	21 (20)
	学術研究, 専門・技術サービス業	100	23 (26)	47 (31)	4 (6)	17 (19)	10 (19)
	宿泊業, 飲食サービス業	100	14 (13)	10 (24)	1 (3)	48 (29)	27 (31)
	生活関連サービス業, 娯楽業	100	23 (9)	10 (27)	1 (-)	51 (42)	15 (22)
	医療, 福祉サービス業	100	17 (15)	30 (17)	2 (-)	39 (47)	11 (21)
	100	15 (8)	18 (16)	- (1)	33 (44)	34 (31)	
大学院卒	調査産業計	100	13 (9)	19 (19)	2 (2)	39 (33)	26 (36)
	建設業	100	15 (13)	21 (18)	- (1)	36 (37)	28 (32)
	製造業	100	16 (9)	19 (23)	3 (4)	38 (35)	23 (28)
	情報通信業	100	27 (16)	35 (46)	2 (2)	22 (24)	14 (12)
	運輸業, 郵便業	100	6 (7)	13 (7)	1 (2)	30 (26)	50 (58)
	卸売業, 小売業	100	9 (6)	20 (18)	0 (1)	36 (30)	36 (46)
	金融業, 保険業	100	21 (27)	26 (19)	- (-)	33 (26)	20 (29)
	不動産業, 物品賃貸業	100	8 (11)	17 (22)	- (-)	50 (48)	25 (19)
	学術研究, 専門・技術サービス業	100	21 (24)	44 (30)	5 (3)	19 (24)	10 (19)
	宿泊業, 飲食サービス業	100	8 (9)	8 (20)	- (4)	52 (36)	32 (32)
	生活関連サービス業, 娯楽業	100	23 (3)	9 (16)	1 (-)	51 (53)	15 (27)
	医療, 福祉サービス業	100	8 (7)	20 (12)	2 (-)	56 (57)	14 (25)
	100	11 (6)	11 (7)	- (1)	38 (51)	40 (35)	
専修学校卒	調査産業計	100	14 (8)	16 (14)	2 (1)	42 (39)	25 (39)
	建設業	100	27 (15)	9 (15)	- (1)	36 (38)	28 (30)
	製造業	100	8 (4)	10 (11)	2 (1)	54 (50)	26 (34)
	情報通信業	100	28 (22)	18 (33)	3 (-)	33 (32)	17 (13)
	運輸業, 郵便業	100	5 (7)	10 (5)	2 (1)	31 (29)	52 (58)
	卸売業, 小売業	100	9 (5)	16 (16)	- (1)	38 (31)	37 (47)
	金融業, 保険業	100	3 (3)	12 (33)	- (-)	54 (27)	31 (37)
	不動産業, 物品賃貸業	100	5 (10)	13 (16)	5 (-)	49 (47)	28 (27)
	学術研究, 専門・技術サービス業	100	15 (12)	26 (15)	- (-)	45 (46)	14 (27)
	宿泊業, 飲食サービス業	100	13 (14)	10 (19)	4 (7)	51 (35)	23 (25)
	生活関連サービス業, 娯楽業	100	3 (8)	28 (17)	3 (1)	51 (51)	15 (22)
	医療, 福祉サービス業	100	25 (19)	29 (16)	5 (3)	34 (44)	6 (18)
	100	15 (8)	8 (6)	- (2)	38 (50)	38 (35)	

注：1) 28年新規学卒者の採用予定者数を27年新規学卒者の採用者数と比べた増減等についての事業所の割合である。
2) 「27年は採用しておらず28年も採用しない」及び無回答を除いて集計した。
3) ()は、平成26年5月調査の数値(平成26年5月1日現在)である。

VII 【参考表】

地区別労働者の過不足状況

地区別の労働者の過不足状況を把握する必要性から平成27年5月1日現在の状況で試算を行った。しかし、一部の地区ではサンプル数が十分でなく誤差が大きくなるため、取扱いには注意を要する。

参考表 地区別労働者過不足状況と判断D.I.(平成27年5月1日現在)

(「不足」-「過剰」, 単位: %、ポイント)

地区	正社員等労働者			パートタイム労働者		
	不足	過剰	D. I.	不足	過剰	D. I.
全国	33 [35]	5 [4]	28 [31]	29 [31]	2 [2]	27 [29]
北海道・東北 *	30 [38]	3 [5]	27 [33]	36 [35]	1 [1]	35 [34]
関東	32 [35]	4 [3]	28 [32]	26 [29]	3 [2]	23 [27]
中部	33 [34]	5 [6]	28 [28]	26 [26]	2 [3]	24 [23]
うち東海	34 [33]	4 [6]	30 [27]	31 [29]	1 [2]	30 [27]
近畿	32 [35]	6 [4]	26 [31]	35 [37]	2 [2]	33 [35]
中国・四国 *	37 [39]	4 [5]	33 [34]	30 [30]	2 [3]	28 [27]
九州・沖縄 *	37 [35]	7 [3]	30 [32]	27 [33]	3 [2]	24 [31]

注: 1)地区区分

北海道・東北	…	北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
関東	…	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
中部	…	新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知、三重
うち東海	…	岐阜、静岡、愛知、三重
近畿	…	滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
中国・四国	…	鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知
九州・沖縄	…	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

2) *は、サンプル数が十分でない地区であることを示す。

3) []は、平成27年2月調査の数値(平成27年2月1日現在)である。